

子どもへの声かけに一工夫！～どうやって、ほめる～

ほめるメリット～ほめることで親子ともに良いサイクルが生まれます～

繰り返すうちに、**ほめられなくてもやれるように！**

別の場面でも
試してみる

別の良い行動の
手助けをする

良い行動
(困った行動減少)

別の場面でも
ほめると
うまくいくかも

うまくいった時
と似ているなあ

またほめてもら
えるチャンスを探るように

子ども

ほめる
みとめる
よろこぶ

保護者

良い行動を
見逃さないよう
になる

こうすれば
ほめてもらえる！

今度も
ほめてみよう

●実況中継で、ほめてみましょう



子どもが、「今、していること」を、そのまま言葉にして伝えてみましょう。子どもは、保護者は自分のことを見ている、認めてもらえている、という感覚が得られます。

棚に本をいれて
いるね。



くつを履けたね。



●25%できたら、ほめてみましょう



全部できなくてもOK

100%完成してほめるのではなく、**25%を目安に「やろうとした気持ち」・「やりかけていること」をほめましょう。**



かばんにハンカチを
入れたね！



着替えようと
しているんだね

ボタンを
とめられたね

●感謝の気持ちを伝えてみましょう。THANK YOU

「～すると、助かる!」「君は役に立つね!」とほめてみましょう。子どもの自己有用感(自分の存在が周りの人に役立っていると感じること)、自己効力感(自己に対する信頼感や有能感のこと)を育てることにつながります。

お皿を片付けてくれて
ありがとう。



お兄ちゃんがいっしょに
遊んでくれるから、
たすかるなあ。



子どもをほめることができるのは、保護者の方の
「良い行動」です。ほめたときには、ぜひ、
ご自分のこともほめてください。

